

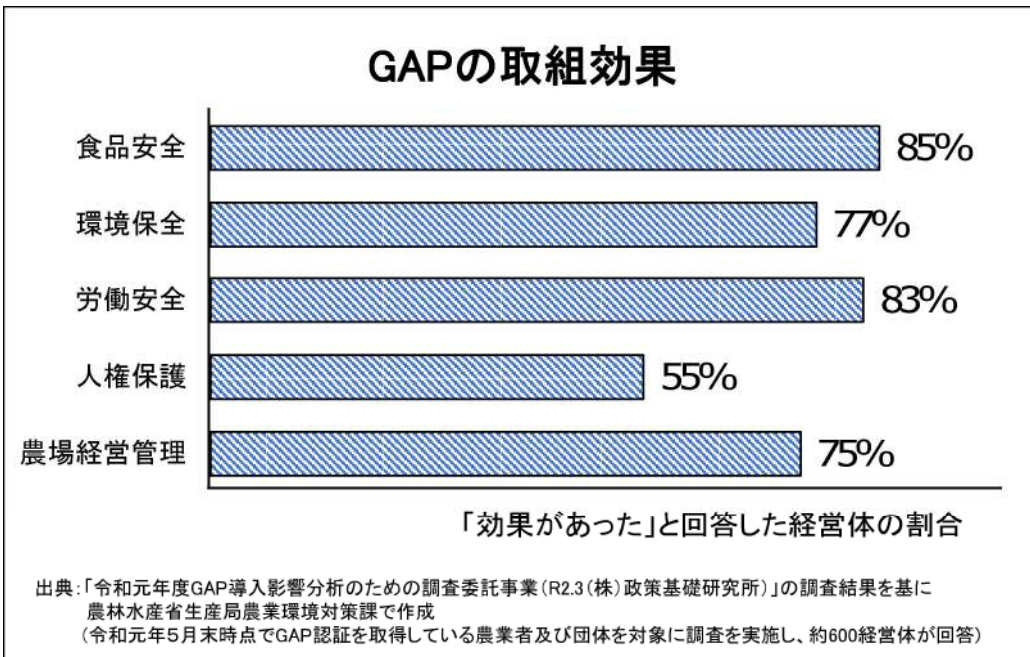
G A P（農業生産工程管理）をめぐる情勢

令和 2 年 9 月
九州農政局生産部生産技術環境課

GAPとは何か

○ GAPとは、農業における生産工程管理の取組で、これを実施することにより、生産管理の向上、効率性の向上、農業者自身や従業員の経営意識の向上につながるといった効果があるため、農業人材の育成、我が国農業の競争力強化にも有効。

GAP	Good Agricultural Practice の略称。 農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の <u>持続可能性を確保</u> するための <u>生産工程管理の取組</u> 。
GAPをする	農業者がGAP(活動又は取組)を <u>自ら実施</u> すること。 認証取得の有無は関係ない。
GAP認証	第三者機関の <u>審査</u> により、GAPが正しく実施されていることが <u>確認された証明</u> 。 日本では、GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAPの3種類が普及している。
GAP認証をとる	GAP <u>認証を受けること</u> 。これにより、GAPを実施していることが客観的に証明される。



農業者が
「GAPをする」

取引先からの
要請 等

自らの経営判断で
「GAP認証をとる」

GAPの実施(例)

→ 農場内を点検し、課題や問題点を見つけ、改善。

< 食品安全 >



包装資材のそばに灯油など汚染
の原因となるものを置かない



堆肥置き場や調製施設では、
専用の履物を準備する

< 環境保全 >



廃棄物を農場に放置
しない



農業空容器は分別
して処分

< 労働安全 >



危険な作業はスイッチを止めてか
ら行う(巻き込まれ防止)



危険箇所の掲示
をする

< 人権保護 >

家族経営協定の締結、
技能実習生の適切な労働条件の確保

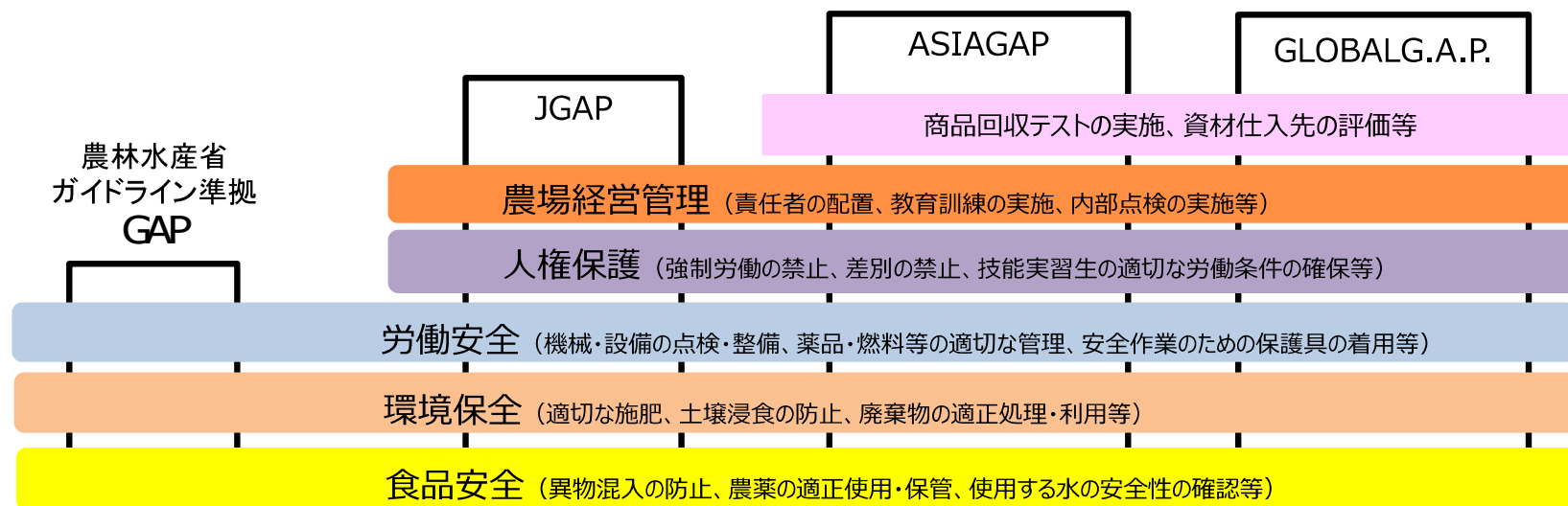
< 農場経営管理 >

責任者の配置、教育訓練の実施、
内部点検の実施

< その他 >

商品回収テストの実施、
資材仕入先の評価

国内におけるさまざまなGAP(各GAPの構成、特徴)



	農林水産省ガイドライン準拠 GAP	「GAP認証をとる」		
		JGAP	ASIAGAP	GLOBALG.A.P.
運営主体	都道府県等	一般財団法人日本GAP協会		FoodPLUS GmbH(ドイツ)
審査会社	—	6社		5社
審査費用の目安 (個別認証の場合※1)	—	約10万円＋旅費	約15万円＋旅費	約44万円＋旅費
東京2020大会 調達基準	△(都道府県の確認がある場合)	○	○	○
GFSI※2承認	—	—	青果物、穀物、茶について 承認※3	青果物について承認
認証取得経営体数※4 (国内農畜産業)	—	4,315	2,379	669

※1 個別認証のほか団体認証があり、団体認証では審査が全員ではなく抽出で行われ、団体事務局への審査も行われる。グループが大きくなるほど、個々の経営体の経費負担は縮小する。

※2 GFSI(Global Food Safety Initiative)とは、グローバルに展開する小売業者・食品製造業者等が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化に向け発足した組織(世界70カ国、約400社が加入するCGF(The Consumer Goods Forum)の下部組織)。

※3 平成30年10月31日GFSIの承認を取得。

※4 令和2年3月末現在。JGAP及びASIAGAPは(一財)日本GAP協会公表。GLOBALG.A.P.はFoodPLUS GmbH聞き取り。複数の認証を取得している経営体については重複計上。

(参考)2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準

《農産物》

持続可能性に配慮した農産物の調達基準(概要)

<要件>

- ① **食材の安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② **周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ **作業者の労働安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。

(要件①～③を満たすことを示す方法)

ア ASIAGAP、

GLOBALG.A.P.、

組織委員会が認める認証

スキーム ※ JGAPなど

イ **「農業生産工程管理(GAP)の
共通基盤に関するガイドライン」**

に準拠したGAPに基づき生
産され、都道府県等公的機関
による第三者の確認

<要件を満たした上で推奨される事項>

・有機農業により生産された農産物

・障がい者が主体的に携わっ
て生産された農産物

・世界農業遺産や日本農業遺産など国際機関
や各国政府により認定された伝統的な農業を
営む地域で生産された農産物

(海外産で、上記要件の①～③の確認が困難な場合)

組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

<国産を優先的に選択>

(国内農業の振興とそれを通じた農村の多面的な
機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品)

加工

(加工食品)

主要な原材料である農産物が本
基準を満たすものを、可能な限り
優先的に調達

サプライヤー(ケータリング事業者等)

出典:公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会作成資料

※ 農林水産省追記:JGAPのほかに「有機JAS認証の審査項目に加えてGAPガイドラインの差分項目を確認する方法」などがある。

GAPの取組・認証取得の拡大に向けて①（GAPをする）

第1期：2017年～2020年（東京2020大会まで）

【目標】〈生産現場が変わる〉

【KPI】平成30年度中に、各県内のGAP指導体制における指導員数を全国で1,000人以上育成確保

第2期：東京2020大会後～2030年

【目標】〈国際水準に達する取組が浸透〉

ほぼ全ての国内の産地で国際水準のGAPを実施

施策 国際水準GAPの取組拡大に向けて

○ 生産現場への周知徹底

GAPは「農業者」の経営改善上、必要不可欠な取組との共通認識。
都道府県等のGAPは、オリパラ調達基準を満たす農林水産省ガイドライン準拠に統一。
→将来的に、国際水準のGAPに向けて発展的解消。

○ 農林水産省関連事業等において優先採択等を設定。

○ 各県内で高い水準で指導できる人材の育成確保を図り、GAP指導体制を構築。

○ 全国農作業安全確認運動、農薬危害防止運動等の関連運動と連携強化。

○ 農業教育機関におけるGAP教育を促進。

実習を含むGAP教育の拡充へ向け高等学校学習指導要領を改訂。

○ オリパラ調達で推奨される有機農業、農福連携、農業遺産も一体的に推進。

GAPの取組・認証取得の拡大に向けて②（GAP認証をとる）

第1期：2017年～2020年（東京2020大会まで）

【目標】東京オリンピック・パラリンピック競技大会に必要な食材量を余裕を持って十分に供給できるGAP認証取得農産物等の出荷量確保

【KPI】・ 令和元年度末までに現状の3倍以上の認証取得
・ 日本発GAP認証の仕組みが国際承認を得る（GLOBALG.A.P.と同等の扱い）

第2期：東京2020大会後～2030年

【目標】〈フードチェーンが変わる〉

- ・ 日本発GAP認証がアジアで主流の仕組み（デファクトスタンダード）となる

施策

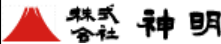
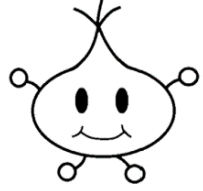
GAP認証の取得拡大に向けて

- 価値を共有する流通業者等を結集し、オールジャパンでの協力体制を構築。
- 地方における審査員の育成確保の促進、団体認証の推進により、審査コスト削減と認証体制強化を図る。
- 日本発GAP認証の仕組み（**ASIAGAP**）が国際承認を取得（平成**30**年**10**月）。
- 日本発GAP認証のアジアでの認知向上を図る。
- 優良事例表彰によるメリット周知とともに認証取得支援を実施。
（なお、認証取得は販売戦略、取引先要請等に基づき農業経営者が判断することが基本。）

GAP認証をめぐる日本国内の食品製造・小売事業者の動き

令和2年9月15日時点:38社 【参考1】

農林水産省では、GAP認証農産物を取り扱う意向を有する実需者を「GAPパートナー」として募集し、HPに掲載！

								
								
								
								
		「GAPパートナー」の取組やお問い合わせ先等の詳細情報については、 GAP情報発信サイト「Goodな農業！GAP-info」に掲載しております。 <Goodな農業！GAP-info> https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap-info.html						

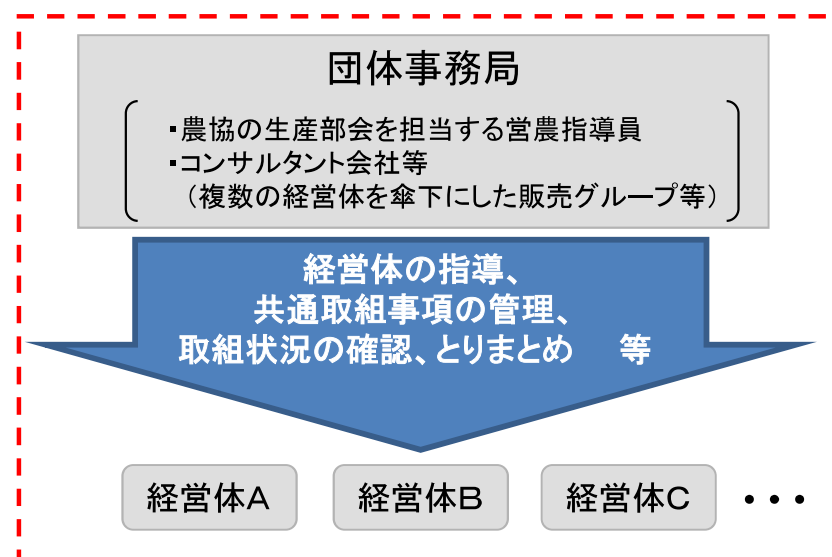


○個別認証で求められる取組の一部が団体の取組として共通化され、個々の負担が軽減。

○団体(グループ)が大きくなるほど、個々の経営体の経費負担は縮小。

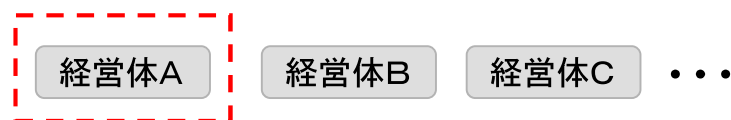
団体認証と個別認証の仕組み

団体認証 対象: 複数の経営体により構成された団体



は1つの審査の対象範囲を表す

個別認証 対象: 個々の経営体



は1つの審査の対象範囲を表す

団体認証の特徴

団体認証の場合、審査は全員ではなく抽出^(※1)で行われる。
抽出数は構成員数^(※2)の平方根の数字(小数点以下切上げ)による。
このほか、団体事務局・集出荷施設等への審査も行われる。

(例) 36経営体の場合 $\sqrt{36} \rightarrow 6$ 経営体(件)
10経営体の場合 $\sqrt{10} \rightarrow 4$ 経営体(件)

このため、同数の個別認証と比べ審査件数が少なくなる。

※1: 構成員数の平方根の1/2以上の数を対象に抜き打ち検査を行う場合がある。

※2: 団体のうち、団体認証の取得対象となる経営体

審査費用<例: 50経営体でJGAPを取得した場合>

団体認証

審査件数: $\sqrt{50}$ 経営体 + 団体事務局等2件 = 10件
審査費用: $10件 \times 10万円 = 100万円$ (※3、※4)

個別認証

審査件数: 50件
審査費用: $50件 \times 10万円 = 500万円$ (※3)

団体認証なら、個別認証と比べ、5分の1の費用で審査が可能。
(経営体数や認証の種別等により費用は変動)

※3: 別途審査員旅費がかかる。

※4: その他、内部検査員・監査員の養成費、検査の外注費用がかかる場合がある。

1. 農林水産省では、「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）」や「未来投資戦略」等を踏まえ、日本発のGAP認証の国際承認に向けた取組を官民連携して推進。
2. こうした取組の結果、日本発のGAP認証「**ASIAGAP**」が平成30年10月31日にGFSIの承認を取得。
3. 欧米を中心とした世界の食品小売・製造事業者において、GFSI承認認証規格による認証が取引条件となりつつある中、今回の承認によりASIAGAPを取得した農業者の取組が国際標準で評価。

「経済財政運営と改革の基本方針2018（骨太方針）」（平成30年6月15日閣議決定）（抜粋）

第2章の5の（4）の①農林水産新時代の構築
（前略）GAPなど規格・認証の活用や国際規格化を戦略的に推進（後略）

「未来投資戦略2018」（平成30年6月15日閣議決定）（抜粋）

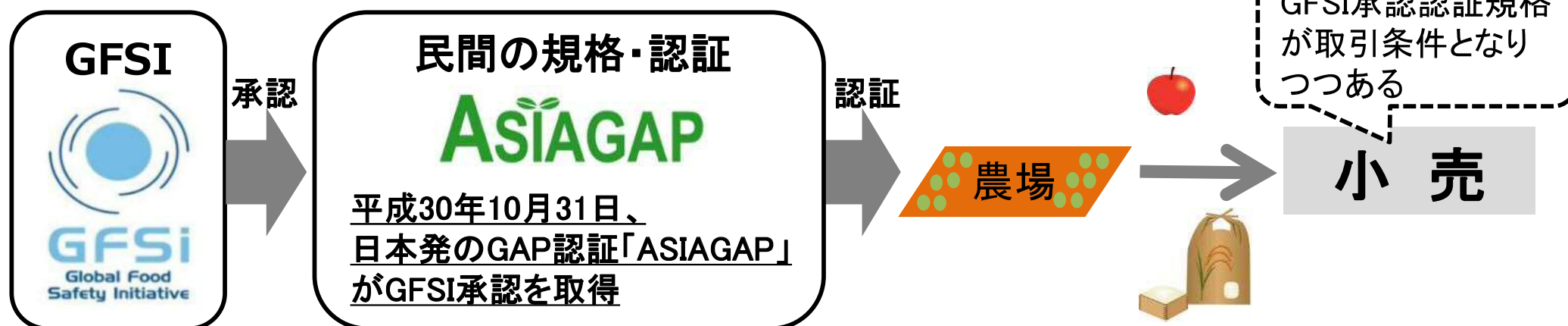
第2のⅠの[4]の1の（3）のii輸出の促進
（前略）国際水準のGAP（農業生産工程管理）（中略）などの規格・認証の戦略的活用を推進（後略）

GFSI（世界食品安全イニシアティブ）

カーギルをはじめとした世界的に展開する食品企業が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、協働して食品安全管理規格の承認等を行う民間団体。

GFSIボードメンバー

Chairs: コストコ、モンデリーズ Vice-Chairs: アマゾン、ダノン
Member: アホルト、アマゾン、イオン、ウェグマンス、ウォルマート、カーギル、カルフル、ココロ、コストコ、ダノン、ドール、マクドナルド、外口、モンデリーズ、ネスレ、中糧集团有限公司 等



GAP拡大の推進

【令和2年度予算額 306（694）百万円】
（令和元年度補正予算額 100百万円の内数）

<対策のポイント>

持続可能な農業構造の実現を図る観点から、農業者にとってメリットの大きい団体認証の取得推進、農業教育機関や輸出に取り組む農業者等への支援など、**国際水準GAPの取組の拡大に向けた取組を支援**します。

<政策目標>

- ほぼ全ての国内の産地で国際水準GAPを実施〔令和12年度まで〕
- GAP共通基盤ガイドラインを国際水準に改訂〔令和2年度まで〕
- 日本発GAP認証（ASIAGAP）をアジアで主流の仕組み（デファクトスタンダード）とする〔令和12年度まで〕
- 畜産GAP認証取得経営体数の増加及び国産畜産物に対する評価の向上

<事業の内容>

- 1. 持続的生産強化対策事業のうち
GAP拡大推進加速化事業 283（661）百万円**
 - （1）国際水準GAP普及推進交付金**
 - 国際水準GAPの取組の拡大に向け、**指導員による指導活動や農業教育機関の認証取得を、都道府県向け交付金により機動的に支援**します。
 - （2）畜産GAP拡大推進加速化**
 - 畜産GAPの普及・推進体制の強化に向け、**指導員等の育成やGAP認証取得等の取組を支援**します。
 - （3）団体認証の取得推進による産地全体のリスク低減実証**
 - 産地におけるGAPの団体認証取得等を通じて、農作業事故等の産地リスクを分析評価し、低減する取組を支援します。
 - （4）改訂GAPガイドライン普及促進**
 - 国際水準に改訂したGAP共通基盤ガイドラインを普及促進するための研修会を開催する取組を支援します。
 - （5）日本発GAPの国際化推進**
 - 日本発GAP認証（ASIAGAP）の利用拡大及び輸出促進のため、**海外実需者に対する研修等の取組を支援**します。
 - 2. グローバル産地づくり緊急対策事業（令和元年度補正予算）のうち
有機JAS認証、GAP認証取得等支援 100百万円の内数**
 - 農産物の輸出拡大に向け、**GAP認証（GLOBALG.A.P.、ASIAGAP）の取得等や審査体制の強化、ASIAGAPの普及拡大の取組を支援**します。
 - 3. 日・アセアン連携によるGAP認知度向上推進 23（20）百万円**
 - 日本発GAP認証のアジアにおける認知度向上のため、**アセアン各国との情報交換や必要な調査等を行う調整員をアセアン事務局に派遣**します。
- （関連事業）**農業経営確立支援事業 422（575）百万円の内数**
 - **農業大学校等**における国際水準GAPに関する新たな教育カリキュラムの作成・実施の取組を支援します。

<事業のイメージ>



【お問い合わせ先】生産局農業環境対策課（03-6744-7188）
生産局畜産振興課（03-6744-2276）

令和元年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール（GAP部門）表彰者の概要

（農林水産大臣賞）

宮崎大学農学部（宮崎県）

JGAP

GLOBALG.A.P.

GAP教育のノウハウを活かした指導者育成

<効 果>

- 平成23年より、国際的GAP人材育成を目指し、GAP手順に沿った教育カリキュラムを開発し、同年に青果物の、翌年に穀物のJGAP認証を取得。平成26年には、国内初の畜産のGLOBALG.A.P.認証を取得。
- 平成24年にGAP指導員講座を新設し、これまで、260名以上のJGAP指導員資格を持った卒業生を輩出。
- 平成28年からは、宮崎県と協力し学外の方への指導員・審査員研修を実施しており、一般的な座学のみならず、現地研修を取り入れ、実際の指導等に対応出来る指導員育成プログラムを構築。
- 平成29年度から県と連携して、畜産GAPの指導員養成のための研修を行っており、宮崎県内の畜産GAPの普及体制構築を支援。
- 県内外からの視察の受入や講師派遣にも積極的に対応し、宮崎県のみならず全国レベルでのGAPの普及に貢献。令和2年度からは、宮崎県や経済連等が進める団体認証の取組の支援を行う予定。



JGAP認証：
木花フィールド



GLOBALG.A.P.認証：
住吉フィールド



【現地での研修会風景】

<認証品目> JGAP: 青果物16品目、穀物(米)
GLOBALG.A.P.: 畜産(肉用牛、仔牛、生乳、豚)

（生産局長賞）

岐阜県立岐阜農林高等学校（岐阜県）

GLOBALG.A.P.

生徒が“先生”、生産者と共に育むGAP！

<効 果>

- 「地域の食・農・環境を持続的に発展できる人材育成の研究」の一環で平成29年からGAPの学習及び取組を開始。
平成30年11月に県内の農業高校では初となるGLOBALG.A.P.を米で取得。審査では、流通科学科の生徒が中心となり対応。
- 教育機関としては、県内の農業科教員を集めた研修会の開催のほか、JGAP及びASIAGAP指導員養成講習会のために同校を会場として提供するとともに農場等の見学会を実施。
- 農場内の点検手法として「GAPトライアージ」を独自に考案し、生徒がアドバイザーとして地域農家のGAP認証の取得を支援。
GAPトライアージとは、改善点の緊急度に応じて、4色のカードを改善ポイントに貼り付けることで、農場の状況を見える化することができる手法。本手法を活用し、農家の方にわかりやすい支援を実施。
- 今後はアドバイザー活動を継続するとともに、米以外の品目でもGAP認証取得に向けて取組を継続。



【岐阜県立岐阜農林高等学校】



【地域農家への支援風景】

<認証品目> 米

令和元年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール（GAP部門）表彰者の概要

（生産局長賞）

GLOBAL G.A.P.

就労継続支援A型事務所シグマファームとういん（三重県）

障がい者が生き生きと働ける農場を目指して

<効 果>

- 就労継続支援A型事務所として、2015年4月に農業へ新規参入。
常駐スタッフ5名、障がい者従業員15名を雇用。
- 生産物のみならず、従業員の安心・安全を目指しGAPを導入。
指導員からの指導等を公開セミナー方式とし、県内における同様な障がい者支援施設でのGAP認証取得を支援・推進。
- 従業員に過度の負担をかけないように、勉強会やミーティングを重ね、「やり過ぎGAP」にならないように配慮して共通意識の形成。
- 整理整頓及び作業の明確化の徹底により、不稼働ロス及び生産物のロスが減少。
- GAP認証取得後、シグマファームとういんの指名買いが増えるなど、取引先が増加し、取引先からの要請もあり、なばな以外の品目でもGAP認証取得に取組中。



【シグマファームとういん】



【朝礼風景】

<認証品目> 三重なばな

（生産局長賞）

ASIAGAP

有限会社グリーンハウス（山口県）

GAPを活かして農業界のトップランナーへ！

<効 果>

- H24年に、安定的且つ持続可能な農業経営を目指して基礎GAPに取組み、H26年にねぎ、ちんげんさいでJGAP、H30年にASIAGAP認証を取得し、R1年には、ほうれんそう、ミニトマトでもASIAGAP認証を取得。
- GAP導入による、作業の細分化及びマニュアル化により、作業の効率化、新入社員の離職率低減に貢献。（完全週休二日制の導入）
- 作業工程の見直しによる効率化により、ねぎの回転数の増加（3→4）及び他品目の導入が可能となり、経営の安定化に貢献。
- 生産経費は、37%低減、生産量は、40%増加（H26→H30）
- GAPによるリスク評価を取り入れた包装センターを新設（H30）。
- 県内の生産者や農業を学ぶ学生への研修以外に、地元の実需者及び消費者にもGAPをPRするなど、フードチェーン全体へのGAPに取組む意義の認知度向上に貢献するとともに、新規の取引先を獲得。



【グリーンハウス】



【包装センター】



【産地説明会】

<認証品目> ねぎ、ちんげんさい、ほうれんそう、ミニトマト